

浜の活力再生プラン  
令和5～9年度  
(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	美波町地域水産業再生委員会
代表者名	豊崎 辰輝 (日和佐町漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	伊座利漁業協同組合、阿部漁業協同組合、由岐漁業協同組合、木岐漁業協同組合、日和佐町漁業協同組合、美波町
オブザーバー	徳島県南部総合県民局

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>美波町日和佐地域 67名 (日和佐町漁協組合員数合計：令和2年12月末現在)</p> <p>※以下、着業漁業種類の内訳を示す。( )内は着業経営体数を示すが、1経営体で複数の漁業種類を兼業するため、合計値は組合員数と合致しない。</p> <p>磯建網 (イセエビ刺網) (47経営体) 採貝・採藻漁業 (32経営体) モジャコ採捕漁業 (5経営体)</p> <p>上記着業者は、一本釣り漁業、小型定置網漁業等を兼業する場合がある。</p>
-------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>美波町は徳島県の南東部に位置し、平成18年3月31日、日和佐町と由岐町が合併して誕生した。日和佐町と由岐町は「上灘」と呼ばれ、南東は太平洋に望み、暖かい黒潮の良好な漁場を有している。旧日和佐町は、おおむね北から西は海部山脈を背にし、東から南は太平洋に面し、大きく開けている。日和佐川河口に臨海平地が開け、市街地を構成している他、地方港の指定を受けた良港“日和佐港”が立地し、町の中心部を構成している。また、海岸線は風光明媚なリアス式海岸で千羽海崖やアカウミガメの産卵地大浜海岸などを有し、室戸阿南海岸国定公園の中心に位置している。</p> <p>本プランの対象となる日和佐地域は、日和佐町漁協管内を示す。同漁協管内では、磯建網 (イセエビ刺網) 及び採貝採藻等の磯根資源を利用する漁業を基幹とし、これに一本釣り漁業や小型定置網漁業等の漁船漁業を組み合わせで営まれている。アジ・サバやカツオ類等の回</p>
---

遊性資源の減少、燃油の高騰等が深刻化していることから磯根資源への依存度が高い漁業形態への転換が進み、定着した。

表1 日和佐町漁協の漁業構造の現状

魚種・分類	項目		金額 (円)		単価 (円/kg)	漁法	
	量 (kg)	構成比		構成比			
磯根資源	イセエビ	16,721.0	18.5%	76,292,533	58.0%	4,563	磯建網
	アワビ(オン)	261.4	0.3%	1,940,739	1.5%	7,424	採貝採藻
	アワビ(メン)	98.9	0.1%	518,051	0.4%	5,238	
	サザエ	578.3	0.6%	416,009	0.3%	719	
	トコブシ	471.0	0.5%	1,347,501	1.0%	2,861	
	ナマコ	264.0	0.3%	95,320	0.1%	361	
	海藻類	10,508.1	11.6%	13,339,429	10.1%	1,269	
	<b>小計</b>	<b>28,902.7</b>	<b>31.9%</b>	<b>93,949,582.0</b>	<b>71.5%</b>		
魚類等資源	カツオ	2,606.7	2.9%	989,078	0.8%	379	一本釣り その他の網 延縄 等
	ヨコ・ビン	1,016.0	1.1%	506,715	0.4%	499	
	シイラ	379.3	0.4%	13,592	0.0%	36	
	メジロ・ハマチ	1,371.6	1.5%	168,083	0.1%	123	
	ヒラメ	388.8	0.4%	410,506	0.3%	1,056	
	クエ	108.6	0.1%	389,075	0.3%	3,583	
	ハゲ	291.5	0.3%	141,057	0.1%	484	
	その他の魚類	2,489.4	2.7%	777,991	0.6%	313	
	アオリイカ	4,430.3	4.9%	7,296,565	5.5%	1,647	
	タコ	1,447.8	1.6%	1,435,660	1.1%	992	
	モジャコ	47,128.2	52.0%	25,410,850	19.3%	539	モジャコ採捕
<b>合計</b>	<b>90,560.9</b>	<b>100.0%</b>	<b>131,488,754</b>	<b>100.0%</b>			

資料：日和佐町漁協業務報告書

現在、基幹となる磯根資源を持続的に利用するため、イセエビの資源管理やアワビの種苗放流に継続して取り組んでいるところである。特にイセエビの資源管理に関しては、漁業者による自主的な操業日数や網数の制限、漁獲量・漁獲サイズの規制、小型サイズの再放流等の取組を進め、令和2年度には約16.7t、7,630万円の生産高となっている。日和佐地域での資源管理の取組成果は県下にも広く認知されている。隣接する木岐漁協と共有する漁業権漁場内では同様の資源管理が行われている他、遠く離れた穴喰漁協等でも日和佐町漁協の指導・協力の下で同様の資源管理の取組が始められ、成果が出始めている。今後は海部郡全域でイセエビの資源管理を浸透させることも視野に入れているところである。

一方、アワビの漁獲量は2019年台風19号の影響で漁場環境が荒れてしまい、資源も減少したため、漁獲量が大きく減少してしまった。漁場環境及び資源の回復に向け、藻場造成や種苗放流、漁獲規制などを強化、徹底する必要がある。

漁獲物の販売は、県内・関西圏域の中央卸売市場に向けた漁協共同出荷が主体だが、水揚げ不振もあってロットがまとまらず、自社トラックによる共同出荷では物流コストや労力負担が大きくなっている。現状では、定期便のある民間物流事業者の集荷場所や徳島魚市場に

荷を集め、出荷先市場（主に大阪市場等の関西方面）へ定期便を利用することが多くなっている。輸送コストの増大等の課題が依然として解決されない状況が続くとともに、出荷先の選択肢の減少とそれに伴う魚価の低迷等も顕在化している。

これらに加え、原油価格の高騰による燃油価格・漁業用資材価格の高止まりは漁業経費率の上昇を招き、漁業経営は非常に厳しい状況に置かれている。このことが新規参入者の減少につながり、漁業者の減少や高齢化の進行、さらには既存漁業者の生産意欲の低下にもつながっている。

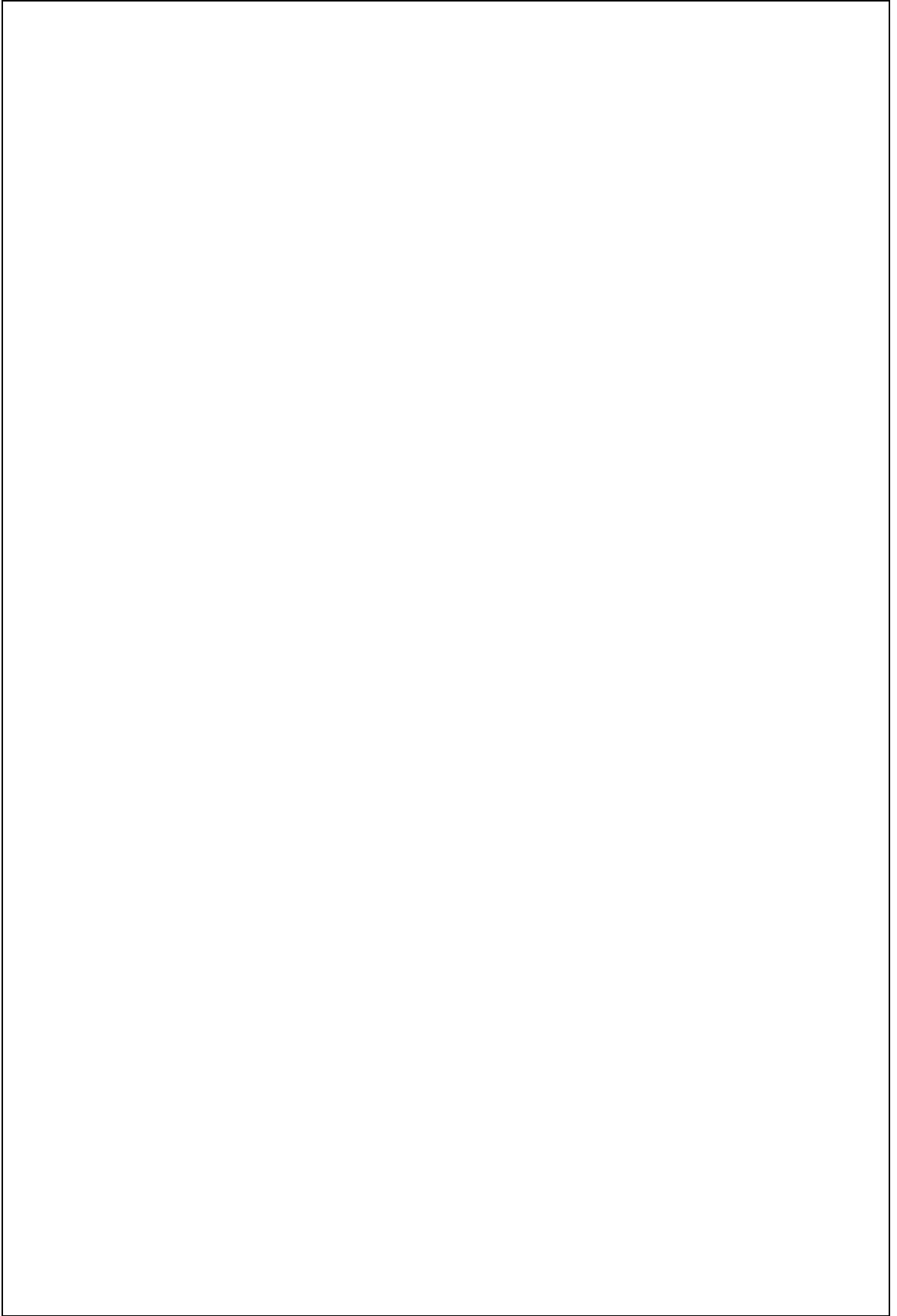
## （２）その他の関連する現状等

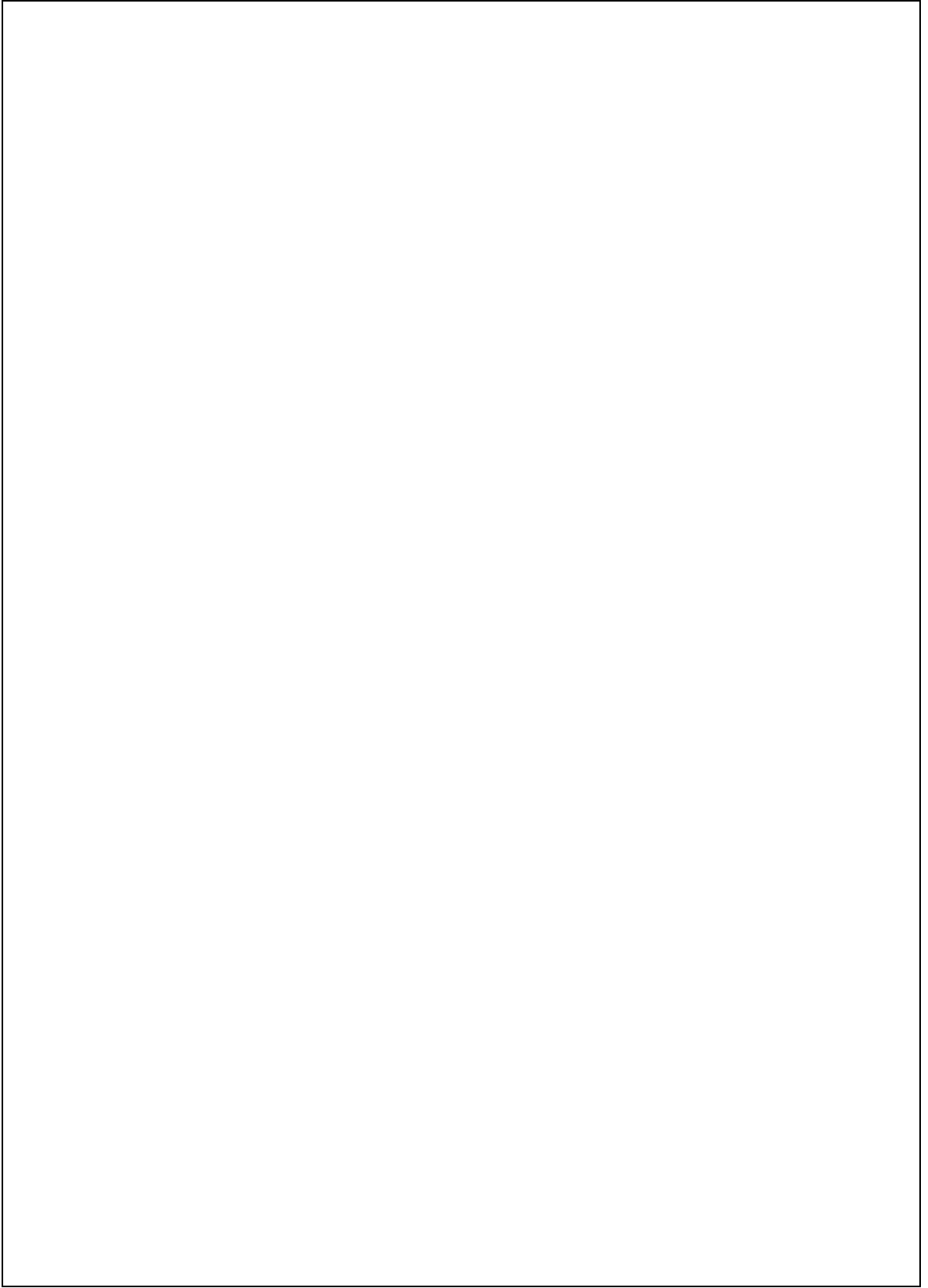
- 日和佐地域には徳島県立農林水産技術総合支援センター水産研究課美波庁舎が立地しており、同庁舎では徳島大学や阿南高専をはじめとした高等教育機関と連携した調査・研究活動が実践されている。
- 日和佐町漁協では、専門家（県水産研究課 0B）の協力の下、アワビの種苗放流効果等について調査を行っており、この調査結果に基づいて効果的な資源管理方策について検討を進めている。
- 美波町内 5 漁協で構成される「海部上灘漁業振興会」では、アワビ稚貝やヒラメ等の種苗放流事業を実施している。

## 3 活性化の取組方針

### （１）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--





## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

美波町・日和佐地域では、イセエビの資源管理型漁業の先進地域として成果を上げ、県下有数のイセエビ産地として堅調な水揚を継続できており、地区組合員の漁業経営の柱となっている。また、アワビやアオリイカ等の資源回復に向けた取り組みも積極的に展開されており、専門家や外部の関係者と連携した組織（「美波の磯を守る会」、「徳島のアオリイカを守る会」）を立ち上げ、海部郡全体に波及する取り組みを牽引している。今後も、当地域の漁業の特色である磯根資源の回復と持続的な利用の実現に向けた資源管理型漁業の基盤強化を浜の活力再生の第一の柱とする。

先述のとおり、出荷・販売機会の逸失（出荷時間や出荷先の制約等）が従来にも増して深刻化しており、周辺漁協も同様の問題を抱えている。これは第1期浜プランからの継続課題でもあり、その解決が浜の活力再生には不可避であることから、周辺漁協との連携による効率的な流通・販売体制の構築を第二の柱とする。なお、この取組は、海部郡広域浜プランとの整合を図りながら進めるものとする。

さらに、上記の取組を徹底するためにも、その担い手たる漁業者全員の意識の向上が必要である。特に、新規就業者も含めて若手の漁業者には、地先沿岸漁場の保全や資源の持続的利用に対する意識を、これまで以上に高めてもらうことが重要となる。日和佐町漁協は、これまでの実績から牽引役となって意識醸成の取組を海部郡全体に波及させることを目指し、第三の柱とする。

以上に示した3つの柱に基づき、具体的な取組を実践することで、地先磯根資源による安定的な収入の実現を図る。さらに、第1期浜プランから取り組んできた減速航行や船底洗浄の徹底を推進することで漁業経費の削減を図り、第2期浜プラン終了時点での漁業所得10%増大を目指す。

### 1. 地先磯根資源の回復・増大と資源管理の徹底

日和佐地域では地先磯根資源を対象とした資源管理型漁業を継続して特にイセエビ漁業では成果を上げてきた。一方で、漁場環境の変化や磯根資源（特にアワビ）の減少が大きな課題となっていることから、外部専門家等との連携の下で、漁場環境保全や資源回復活動のさらなる推進を図っていく。

#### 1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続

#### 1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底

#### 1-3 トコブシ種苗放流の実施

#### 1-4 イセエビ資源管理の継続

#### 1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援

### 2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給

日和佐地域ではこれまでの共同出荷体制の維持が困難となってきたことから、周辺漁協とも連携した合理的な共同出荷体制を構築し、流通コストの低減や価格向上を図る。共同出荷体制の構築にあたっては、新たな技術の導入による効率的な活魚出荷方法の検討も含め、運送業者との協力体制の構築も視野に入れる。

また、海部郡の9漁協による「とくしま海部水産物品質確立協議会」を核として取り組まれている活締めによる高品質化の取組みを継続、発展させ、付加価値の向上を図る。

**2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築**

**2-2 新たな活魚出荷方法の導入**

**2-3 イセエビの需要拡大**

**2-4 高品質な水産物の供給**

**2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進**

**3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み**

漁業の担い手の確保にあたっては、一定水準の所得の確保を最優先とし、基幹となる磯根資源対象漁業の振興を図る。また、地域での水揚状況を踏まえながらI・J・Uターン者等も含め、幅広く漁業への新規参入者の受入を推進する。

**3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進**

**4. 漁業経費の削減に資する取り組み**

漁船漁業の主要な経費である燃油の削減を図ることで漁業コストの削減を図るとともに、漁協経済事業の合理化を進め、賦課金負担等の軽減を図る。

**4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策**

**4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進**

**4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入促進**

**(3) 資源管理に係る取組**

漁業調整規則等の公的管理の順守を徹底するとともに、漁業者による自主的な資源管理を推進する。

**(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）**

1年目（令和5年度）所得向上（基準年比）9.6%

漁業収入向上のための取組	1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底 1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続 ・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これま
--------------	---

	<p>で実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、外部専門家及び組合員の協力の下、外部関係者も含めて設置した「美波の磯を守る会」の活動を実践する。</li> </ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li> <li>・日和佐町漁協と採貝採藻漁業者は、より効果的な手法の一つとして、民間ダイビング事業者と連携した種苗放流※を実施し、その効果を検証する。</li> <li>・日和佐町漁協は、専門家の協力の下で実施しているアワビ種苗放流効果等の調査を継続するとともに、採貝採藻漁業者との協議を行いながら、自主的な資源管理方策を定め、実践する。</li> <li>・採貝採藻漁業者は、現行の殻長規制（クロ 9 cm、メガイ 10 cm以上）を遵守して操業する。また、必要に応じて日和佐町漁協が自主的な資源管理方策を定めた場合には、これを遵守する。</li> </ul> <p>※船上から稚貝を放流する従来の方法ではなく、海中の岩の隙間や餌となる海藻の多い場所など、隠れ場や餌場となっている場所に、ダイバーが直接放流することで生残率を高める方法</p> <p><b>1-3 トコブシ種苗放流の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、トコブシ種苗の放流を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>1-4 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と磯建網漁業者は、従来実施してきたイセエビ資源管理の取組を引き続き徹底する。</li> </ul> <p><b>1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li> <li>・日和佐町漁協は、海部郡で開催される講習会等に、イセエビ資源管理の先進地として積極的に参加し、海部郡全域の漁協及び漁業者の意識醸成に貢献する。</li> </ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築</b></p>
--	--



- ・日和佐町漁協は、合理的な共同出荷を目指して荷物のロットをまとめるため、当面は、阿部漁協や木岐漁協との荷物の積合せ出荷の実現を目指し、具体的な方法（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）を検討する。
- ・海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）による合同の共同出荷体制の構築を目指し、県・町の協力の下、関係各漁協の協議の場「共同出荷体制検討会（仮称）」を設置する。

## 2-2 新たな活魚出荷方法の導入

- ・日和佐町漁協は、生産量の減少や出荷機会の制限などの課題を解決すべく、小ロットでの効率的な活魚出荷の新たな技術である「魚活ボックス（日建リース工業㈱、下記写真参照）」の活用を検討し、イセエビ・アワビ等の活魚出荷による合理化、付加価値化を図る。なお、魚活ボックスは、簡易的な活魚畜養も可能であるため、出荷調整を行うことも検討する。



(写真) 魚活ボックスによる東京都離島域からの活魚出荷試験の状況

出典：農林水産省 HP より引用

## 2-3 イセエビの需要拡大

- ・日和佐町漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。

## 2-4 高品質の水産物の供給

- ・日和佐町漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実

	<p>施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。併せて、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</p> <p><b>2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、町や外部協力者（従来から協力関係にあるフランス料理のシェフなど）との連携の下で、最も安定して原料供給が期待できるイセエビやカツオ・マグロ等の地元産水産物を使用した商品開発を継続し、道の駅での販売やふるさと納税の返礼品での利用等で供給する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、地域漁業の生産状況を踏まえ、地先資源の持続的利用を前提としながら、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外から広く新規漁業着業者の受入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築と歩調を合わせ、販売事業の合理化の検討を進める。</li> </ul> <p><b>4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高等時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

2年目（令和6年度）所得向上（基準年比）11.2%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組を継続する。</li> <li>・日和佐町漁協は、外部専門家及び組合員の協力の下、外部関係者も含めて設置した「美波の磯を守る会」の活動を実践する。</li> </ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li> <li>・日和佐町漁協と採貝採藻漁業者は、より効果的な手法の一つとして、民間ダイビング事業者と連携した種苗放流※を実施し、その効果を検証する。</li> <li>・日和佐町漁協は、専門家の協力の下で実施しているアワビ種苗放流効果等の調査を継続するとともに、採貝採藻漁業者との協議を行いながら、自主的な資源管理方策を定め、実践する。</li> <li>・採貝採藻漁業者は、現行の殻長規制（クロ 9 cm、メガイ 10 cm以上）を遵守して操業する。また、必要に応じて日和佐町漁協が自主的な資源管理方策を定めた場合には、これを遵守する。</li> </ul> <p>※船上から稚貝を放流する従来の方法ではなく、海中の岩の隙間や餌となる海藻の多い場所など、隠れ場や餌場となっている場所に、ダイバーが直接放流することで生残率を高める方法</p> <p><b>1-3 トコブシ種苗放流の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、トコブシ種苗の放流を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>1-4 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協と磯建網漁業者は、従来実施してきたイセエビ資源管理の取組を引き続き徹底する。</li> </ul> <p><b>1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li> <li>・日和佐町漁協は、海部郡で開催される講習会等に、イセエビ資源管理の先進地として積極的に参加し、海部郡全域の漁協及び漁業者の意識醸成に貢献する。</li> </ul>
---------------------	--

## 2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給

### 2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築

- ・日和佐町漁協は、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷体制の実現を目指し、具体的な方法（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）の検討結果を取りまとめて、共同出荷試験の実施計画を策定する。
- ・日和佐町漁協は、県・町の協力の下、海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）で設置した「共同出荷体制検討会（仮称）」において、共同出荷体制の構築に向けた具体的な方策（集荷方法、集荷場所・時間、魚種ごとの取扱い方法、その他必要な事項）の検討を開始する。

### 2-2 新たな活魚出荷方法の導入

- ・日和佐町漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業株）」の活用に向けた検討結果に基づき、簡易畜養による出荷調整も含めて活魚出荷試験を開始する。試験結果は、共同出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。

### 2-3 イセエビの需要拡大

- ・日和佐町漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。

### 2-4 高品質の水産物の供給

- ・日和佐町漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。併せて、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。

### 2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進

- ・日和佐町漁協は、町や外部協力者（従来から協力関係にあるフランス料理のシェフなど）との連携の下で、最も安定して原料供給が期待できるイセエビやカツオ・マグロ等の地元産水産物を使用した商品開発を継続し、道の駅での販売やふるさと納税の返礼品での利用等で供給

	<p>する。</p> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、地域漁業の生産状況を踏まえ、地先資源の持続的利用を前提としながら、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外から広く新規漁業着業者の受入を推進する。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築と歩調を合わせ、販売事業の合理化の検討を進める。</li> </ul> <p><b>4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高等時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

3年目（令和7年度）所得向上（基準年比）15.9%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li> <li>・日和佐町漁協は、外部専門家及び組合員の協力の下、外部関係者も含めて設置した「美波の磯を守る会」の活動を実践する。</li> </ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li> </ul>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と採貝採藻漁業者は、より効果的な手法の一つとして、民間ダイビング事業者と連携した種苗放流※を実施し、その効果を検証する。</li> <li>・日和佐町漁協は、専門家の協力の下で実施しているアワビ種苗放流効果等の調査を継続するとともに、採貝採藻漁業者との協議を行いながら、自主的な資源管理方策を定め、実践する。</li> <li>・採貝採藻漁業者は、現行の殻長規制（クロ 9 cm、メガイ 10 cm以上）を遵守して操業する。また、必要に応じて日和佐町漁協が自主的な資源管理方策を定めた場合には、これを遵守する。</li> </ul> <p>※船上から稚貝を放流する従来の方法ではなく、海中の岩の隙間や餌となる海藻の多い場所など、隠れ場や餌場となっている場所に、ダイバーが直接放流することで生残率を高める方法</p> <p><b>1-3 トコブシ種苗放流の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、トコブシ種苗の放流を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>1-4 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協と磯建網漁業者は、従来実施してきたイセエビ資源管理の取組を引き続き徹底する。</li> </ul> <p><b>1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年 1 回定期的に開催する。</li> <li>・日和佐町漁協は、海部郡で開催される講習会等に、イセエビ資源管理の先進地として積極的に参加し、海部郡全域の漁協及び漁業者の意識醸成に貢献する。</li> </ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷体制の実現を目指し、前年に取りまとめた共同出荷試験実施計画に基づき、共同出荷試験を実施する。試験結果については、海部郡での共同出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。</li> <li>・県・町の協力の下、海部郡で共同出荷を主体とした販売事業を実施している漁協（牟岐町漁協、牟岐東漁協、木岐漁協、日和佐町漁協、阿部漁協、伊座利漁協）で設置した「共同出荷体制検討会（仮称）」は、</li> </ul>
--	--

	<p>これまでの検討結果を取りまとめ、上記関係 6 漁協での共同出荷試験の実施計画を策定する。</p> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、実装に向けて「魚活ボックス（日建リース工業㈱）」を活用した活魚出荷試験を継続して実施する。試験結果については、共同出荷体制の構築に向けた検討の基礎資料として活用する。</li> </ul> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</li> </ul> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。併せて、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、町や外部協力者（従来から協力関係にあるフランス料理のシェフなど）との連携の下で、最も安定して原料供給が期待できるイセエビやカツオ・マグロ等の地元産水産物を使用した商品開発を継続し、道の駅での販売やふるさと納税の返礼品での利用等で供給する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、地域漁業の生産状況を踏まえ、地先資源の持続的利用を前提としながら、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外から広く新規漁業着業者の受入を推進する。</li> </ul>
--	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日和佐町漁協は、周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築と歩調を合わせ、販売事業の合理化の検討を進める。</li> </ul> <p><b>4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日和佐町漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高等時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

4年目（令和8年度）所得向上（基準年比）20.1%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li> <li>日和佐町漁協は、外部専門家及び組合員の協力の下、外部関係者も含めて設置した「美波の磯を守る会」の活動を実践する。</li> </ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li> <li>日和佐町漁協と採貝採藻漁業者は、より効果的な手法の一つとして、民間ダイビング事業者と連携した種苗放流<sup>*</sup>を実施し、その効果を検証する。</li> <li>日和佐町漁協は、専門家の協力の下で実施しているアワビ種苗放流効果等の調査を継続するとともに、採貝採藻漁業者との協議を行いながら、自主的な資源管理方策を定め、実践する。</li> <li>採貝採藻漁業者は、現行の殻長規制（クロ9cm、メガイ10cm以上）</li> </ul>
---------------------	--



	<p>を遵守して操業する。また、必要に応じて日和佐町漁協が自主的な資源管理方策を定めた場合には、これを遵守する。</p> <p>※船上から稚貝を放流する従来の方法ではなく、海中の岩の隙間や餌となる海藻の多い場所など、隠れ場や餌場となっている場所に、ダイバーが直接放流することで生残率を高める方法</p> <p><b>1-3 トコブシ種苗放流の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、トコブシ種苗の放流を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>1-4 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協と磯建網漁業者は、従来実施してきたイセエビ資源管理の取組を引き続き徹底する。</li> </ul> <p><b>1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li> <li>・日和佐町漁協は、海部郡で開催される講習会等に、イセエビ資源管理の先進地として積極的に参加し、海部郡全域の漁協及び漁業者の意識醸成に貢献する。</li> </ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷試験を継続して実施するとともに、前年度に策定した関係6漁協での共同出荷試験実施計画に基づき、共同出荷試験を開始する。試験結果については、「共同出荷体制検討会（仮称）」で分析・検討し、共同出荷体制構築に向けた基礎資料として活用する。</li> </ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業株）」を活用した活魚出荷試験の結果に基づき、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷での実装を推進するとともに、関係7漁協での共同出荷での導入を検討する。</li> </ul> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube)</li> </ul>
--	--

	<p>等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</p> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。併せて、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、町や外部協力者（従来から協力関係にあるフランス料理のシェフなど）との連携の下で、最も安定して原料供給が期待できるイセエビやカツオ・マグロ等の地元産水産物を使用した商品開発を継続し、道の駅での販売やふるさと納税の返礼品での利用等で供給する。</li> </ul> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、地域漁業の生産状況を踏まえ、地先資源の持続的利用を前提としながら、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外から広く新規漁業着業者の受入を推進する。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</li> </ul> <p><b>4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築と歩調を合わせ、販売事業の合理化の検討を進める。</li> </ul> <p><b>4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高等時の漁業経費の増大に備える。</li> </ul>

活用する支援措置等	(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業
-----------	--

5年目（令和9年度）所得向上（基準年比）25.3%

漁業収入向上のための取組	<p><b>1. 地先磯根資源の増大と資源管理の徹底</b></p> <p><b>1-1 磯根資源を育む漁場環境の保全の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町との連携のもとで、これまで実施してきた有害生物（ウニ類）駆除等の漁場環境保全の取組みを継続する。</li> <li>・日和佐町漁協は、外部専門家及び組合員の協力の下、外部関係者も含めて設置した「美波の磯を守る会」の活動を実践する。</li> </ul> <p><b>1-2 アワビ種苗放流の拡大と資源管理の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、アワビ種苗の放流個数を増大して放流事業を継続する。</li> <li>・日和佐町漁協と採貝採藻漁業者は、より効果的な手法の一つとして、民間ダイビング事業者と連携した種苗放流※を実施し、その効果を検証する。</li> <li>・日和佐町漁協は、専門家の協力の下で実施しているアワビ種苗放流効果等の調査を継続するとともに、採貝採藻漁業者との協議を行いながら、自主的な資源管理方策を定め、実践する。</li> <li>・採貝採藻漁業者は、現行の殻長規制（クロ9cm、メガイ10cm以上）を遵守して操業する。また、必要に応じて日和佐町漁協が自主的な資源管理方策を定めた場合には、これを遵守する。</li> </ul> <p>※船上から稚貝を放流する従来の方法ではなく、海中の岩の隙間や餌となる海藻の多い場所など、隠れ場や餌場となっている場所に、ダイバーが直接放流することで生残率を高める方法</p> <p><b>1-3 トコブシ種苗放流の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協が所属する海部上灘漁業振興会は、県・町との連携によって、トコブシ種苗の放流を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>1-4 イセエビ資源管理の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協と磯建網漁業者は、日和佐町漁協と磯建網漁業者は、従来実施してきたイセエビ資源管理の取組を引き続き徹底する。</li> </ul> <p><b>1-5 漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会開催支援</b></p>
--------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協とすべての漁業者は、県・町の協力（講師の選定・紹介、派遣等）の下、漁場環境保全及び資源管理にかかる意識醸成のための講習会を年1回定期的に開催する。</li> <li>・日和佐町漁協は、海部郡で開催される講習会等に、イセエビ資源管理の先進地として積極的に参加し、海部郡全域の漁協及び漁業者の意識醸成に貢献する。</li> </ul> <p><b>2. 合理的な共同出荷体制の構築と高品質な水産物の供給</b></p> <p><b>2-1 周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷試験に基づいて事業ベースでの共同出荷に移行するとともに、前年度に開始した関係6漁協での共同出荷試験を継続して実施する。試験結果については、「共同出荷体制検討会（仮称）」で分析・検討し、共同出荷体制構築に向けた基礎資料として活用する。</li> </ul> <p><b>2-2 新たな活魚出荷方法の導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、「魚活ボックス（日建リース工業株）」を活用した活魚出荷試験の結果に基づき、阿部漁協及び木岐漁協との共同出荷での事業ベースでの利用に移行するとともに、関係7漁協での共同出荷での導入を推進する。</li> </ul> <p><b>2-3 イセエビの需要拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、漁獲が安定しているイセエビの需要拡大を目指し、町・「とくしま海部水産物品質確立協議会」との連携の下、イセエビの調理方法や漁獲方法等の情報について、SNS や無料動画配信 (YouTube) 等を用いて発信することを検討する（現在、配信されている動画に加え、より詳しい情報で、かつ、魅力的な食材であることをアピールする内容の動画配信を検討）。</li> </ul> <p><b>2-4 高品質の水産物の供給</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協の漁業者は、「とくしま海部水産物品質確立協議会」が実施するアオリイカのブランド化（ハンマー締め等による高品質化）に継続して参加する。併せて、イセエビやノドグロ（アカムツ）についても、上記協議会による「海部の魚」ブランドの取組に継続して参加する。</li> </ul> <p><b>2-5 地域水産物の有効活用と高付加価値化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日和佐町漁協は、町や外部協力者（従来から協力関係にあるフランス料理のシェフなど）との連携の下で、最も安定して原料供給が期待できるイセエビやカツオ・マグロ等の地元産水産物を使用した商品開発</li> </ul>
--	---

	<p>を継続し、道の駅での販売やふるさと納税の返礼品での利用等で供給する。</p> <p><b>3. 漁業後継者・担い手確保に資する取り組み</b></p> <p><b>3-1 水揚状況に応じた地域内外からの新規漁業着業の促進</b></p> <p>・日和佐町漁協は、地域漁業の生産状況を踏まえ、地先資源の持続的利用を前提としながら、「とくしま漁業アカデミー」との連携の下、地域内外から広く新規漁業着業者の受入を推進する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p><b>4. 漁業経費の削減に資する取り組み</b></p> <p><b>4-1 減速航行と船底・プロペラの徹底洗浄による省燃油対策</b></p> <p>・すべての漁業者は、漁場までの減速航行を継続して行うとともに、船底・プロペラ等の洗浄作業を最低年1回実施するなど、省燃油活動を徹底し、コストの削減を図る。</p> <p><b>4-2 共同出荷事業の統合による合理化の推進</b></p> <p>・日和佐町漁協は、周辺漁協との連携による共同出荷体制の構築と歩調を合わせ、販売事業の合理化の検討を進める。</p> <p><b>4-3 漁業経営セーフティネット構築事業への加入推進</b></p> <p>・日和佐町漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進し、燃油高等時の漁業経費の増大に備える。</p>
活用する支援措置等	<p>(国)漁業経営セーフティネット、(国)水産多面的機能発揮対策事業、(国)資源管理・漁業経営安定対策事業、(国)産地水産業強化支援事業、(国)漁業就業者確保・育成対策事業</p>

(5) 関係機関との連携

<p>①県と町、漁業協同組合等の連携のもと、当プランにおける取組と類似した共同出荷や経済事業の統合事例、漁獲物の付加価値向上等の先進事例について研修する機会を設ける。</p> <p>②共同出荷の積合せについては、阿部漁協、木岐漁協との協議と緊密な連携の下で実施する。</p> <p>③海部郡全体での共同出荷体制の構築に向け、海部郡広域水産業再生委員会との緊密な連携の下で共同出荷体制の検討と出荷試験の実践を行う。</p> <p>④日和佐町漁協が中核となって設立した「美波の磯を守る会」、「徳島のアオリイカを守る会」との連携の下で、漁場環境保全及び資源回復の取組を推進する。</p>
--

#### 4 目標

##### (1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	令和3年度： 漁業所得 円/人
	目標年	令和9年度： 漁業所得 円/人

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

##### (3) 所得目標以外の成果目標

アワビ（オン）漁獲量	基準年	令和3年度： 534 kg
	目標年	令和9年度： 547 kg
アワビ（メン）漁獲量	基準年	令和3年度： 106 kg
	目標年	令和9年度： 109 kg
イセエビ漁獲量	基準年	令和3年度： 17,411 kg
	目標年	令和9年度： 17,846 kg
アオリイカ漁獲量	基準年	令和3年度： 3,818 kg
	目標年	令和9年度： 3,913 kg

##### (4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>・所得目標の算定にあたって、想定した効果として上記4種の重要種について漁獲量の増大を設定した。詳細は所得目標計算総括表を参照されたい。</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
資源管理・漁業経営 安定対策事業	資源管理の実施、漁業経営の安定化
産地水産業強化支援 事業	鮮度保持施設等の整備およびブランド化の提唱
水産多面的機能発揮 対策事業	漁場環境保全活動の実施
漁業就業者確保・育 成対策事業	新規就業者、担い手の長期研修等の実施
漁業経営セーフティ ネット構築事業	燃油高騰対策、漁業経営の安定化
未定	付加価値向上、産地直送等の新規流通経路の開拓